

和光新校基本計画検討委員会（第2回） 議事録

- 1 日 時 令和5年5月24日（水） 午後3時開会
午後4時10分終了
- 2 会 場 県立和光国際高等学校大会議室
- 3 出席委員 栗藤委員長、松本（浩）副委員長、岡島副委員長、込戸委員、森山委員、後閑委員、山崎委員、山本委員、谷津委員、落合（範）委員、秋山委員、大池委員、小池委員、野澤委員、龍野委員
- 4 事務局 魅力ある高校づくり課 中島、坂本、高辻、橋本

5 協議等 「和光新校基本計画骨子（案）」について

栗藤委員長 前回の委員会では、両校において作成いただいた新校基本計画検討案に対して、御意見を伺ったところです。その後、新校準備委員会が開かれまして、学校の関係者からなる地元の声を伺いました。今回は事務局にて、両校で検討した案を踏まえまして、検討し作成した骨子案を「資料1」としてしています。この「資料1」の説明を事務局からお願いしたいと思います。ボリュームがありますので、パートごとに分けながらお願いしたいと思います。

事務局 （和光新校基本計画骨子（案）のうち課程・学科等、学校規模について説明）

栗藤委員長 ただ今説明がありました。学科名や学校規模については、様々な御意見があると思いますので、時間をかけたいと思います。また、次の基本理念についても大事なところなので、時間をかけたいと思います。では、ただ今説明のあった学科名と学校規模について、御意見がありましたらお願いいたします。

栗藤委員長 今回の第2期実施方策では、国際系の新校が3校立ち上がるわけですが、そのうち、中心的な役割を担うのがこちらの和光新校となります。老舗の学科名として、国際科となっております。他の国際に関する学科がある2校がどうなっているか、原案の状況で結構なので御説明いただけますか。

事務局 はい。他の国際に関する学科を紹介したいと思います。まず、岩槻高校と岩槻北陵高校を統合する岩槻新校も、普通科と国際に関する学科を設置する予定でございまして、原案の状況は、普通科と国際探究科としています。また、秩父高校と皆野高校を統合する秩父・皆野新校も普通科と国際に関する学科を設置する予定でございまして、こちらも普通科と国際探究科を原案としています。

栗藤委員長 それぞれの実施方策で示す基本方針を御覧いただいているかと思いますが、少し違う記載になっていることが、学科名の差になっていると思っています。

そういったことも、御意見を頂けるのであれば有り難いので、もちろん和光新校の国際科という学科名が良いのかどうかということも含めて御意見をいただけると有り難いです。では、山崎委員お願いします。

山崎委員 和光国際高校はもともと外国語科でしたが、外国語に特化したものではなくて、地球規模の課題に、全ての科目で学校を上げて取り組むという観点からしますと、時代の要請に応じている国際科という名称が、保護者にも中学生にも分かりやすいと思いますので、原案を支持します。

栗藤委員長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。学校規模についても同時に原案が示されております。現在の和光国際高校と規模感は同じで、学科ごとのクラス数も同じになっています。6対2です。こちらについても何かあれば、お願いします。よろしいですか。では、次に進みます。

事務局 (和光新校基本計画骨子(案)のうち基本理念(目指す学校、育てたい生徒像)について説明)

栗藤委員長 はい。1ページの後半の基本理念のところです。コンセプトの部分についての説明でした。こちらについて、御意見がありましたら、御質問でも結構ですので挙手願います。この辺りは、学校の基本的な考え方、進む方向を示すものです。目指す学校となっている点にご注意ください。目指す学校像は新校開校後に、それぞれの学校が、関係者の皆さんの意見なども踏まえながら作っていく中長期目標になります。ここでは、目指す学校という言い方で、あえて変えておりますので、御留意ください。育てたい生徒像も、現在3つのポリシーを作っていただいておりますが、最終的にはその基になる言葉かなと思います。そうした点をトータルに御意見いただければと思います。よろしいでしょうか。では、先に進めて行きたいと思っております。その次のパートをお願いします。

事務局 (和光新校基本計画骨子(案)のうち基本姿勢、教科指導について説明)

栗藤委員長 こちらは教育活動の基本姿勢と教科指導ということになっています。よろしいですか。また後で、全体を振り返る時間も取りたいと思っております。では、先に進めて行きたいと思っております。次のパートをお願いします。

事務局 (和光新校基本計画骨子(案)のうち生徒指導について説明)

栗藤委員長 はい。では、この生徒指導のパートについて、御意見があればお願いします。最終的にはこれらを来年度から設置される新校開設委員会の中で、学則、校則、生徒心得などを準備していくこととなりますが、その柱となるところが、こちらの案となっています。では、補足をお願いします。

事務局 具現化のイを御覧いただければと思います。こちらは事務局で追記させていただいた内容となっています。特に両校とも、部活動や学校行事などに力を入れているという現状を踏まえて記載しました。実はこの部活動という言葉が他の新校基本計画検討委員会でも話題になっていまして、今後の部活動の在り方、地域移行も話題にありますので、そうした観点で、他の新校では課外活動としています。そうしたこともありますので、ここの部活動という表記は、再度事務局でも検討させていただくのですが、恐らく、課外活動という言葉で整理することになるかと思

ます。以上です。

栗藤委員長 はい。他の委員会で指摘されていますので、課外活動という表現の方がというお話がありました。最終的には事務局で整理していくこととなりますが、本日は皆様から御意見をいただいて、そちらを持ち帰り、さらにブラッシュアップして最終的な案に仕上げていきたいと考えています。気付いたところを御意見いただければと思っています。では、山崎委員よろしくをお願いします。

山崎委員 国際科ということで、様々な価値観を持った多様な生徒が入学してくることが考えられますが、その場合に、校則や制服などは従来のものを踏襲して考えるのか、あるいはもう少し多様な価値観を認めるような幅のあるものを考えていくのか、今の段階で考えがあったらお聞きしたいと思います。

栗藤委員長 はい。いかがでしょうか。事務局に考え方はありますか。

事務局 令和6年度から設置する新校開設委員会で、制服や校則については決めていきたいと思っています。現時点ではなんとも言えないところがありますが、生徒指導提要在が改正されたこともありますので、多様性を認めていくような方向になっていくのかなと想定しています。そのような認識ではおります。

栗藤委員長 はい。生徒指導という考え方が大きく変わりつつある。変わってきたタイミングでは、新校のコンセプトとして、山崎委員がおっしゃった観点で多様性に対応するということ、取り入れられるということもありかと思えます。他はいかがでしょう。では、お願いします。

岡島副委員長 細かいところですが、先ほど具現化のイで部活動から課外活動に訂正することも含めて再検討というお話がありましたが、語順なのですが、並列ではあるものの、課外活動や学校行事とするのか、学校行事や課外活動とするのか、そうしたところも少し御検討いただいた方が良いかと思えます。学校行事の方が本来の教育活動としてはプライオリティが高いかなと感じますので、どちらも重要な要素ではあるのですが、そうしたところも含めて御検討いただければと思います。

事務局 貴重な御意見ありがとうございました。参考にさせていただきます。

栗藤委員長 ありがとうございます。原案を見ても、通常は、学校行事や部活動という語順になるでしょうから、委員御指摘の通りになるかと思えます。他はどうですか。では、次のパートをお願いします。

事務局 (和光新校基本計画骨子(案)のうち進路指導について説明)

栗藤委員長 はい。進路指導のパートでした。こちらについて御意見がありましたら、御質問でも結構です。お願いします。山本委員お願いします。

山本委員 先程の部活動に関する話の流れで、今の部活動の在り方を考えた際の文言ということであるならば、学年と教科と分掌と部活動を並列させて、それらが進路実現にという箇所、部活動による進路実現というイメージが抱きにくいと思えました。

事務局 参考にさせていただきます。ありがとうございました。

栗藤委員長 はい。事務局も何重ものチェックはしているのですが、たくさんの学校の委員会を同時に動かしている関係で資料もたくさんあり、もしかすると文言的に

整合性が取れていない箇所もあつたりします。違う委員会でもそうした御指摘を受けたりしていますので、細かいところでも結構です。御指摘いただけると、この後の作業が大変行いやすくなりますので、御協力いただけると助かります。ありがとうございます。他に御意見や御質問等がありますか。では、前に進みたいと思います。次が最後のパートになります。お願いします。

事務局 （和光新校基本計画骨子（案）のうち生徒募集、その他について説明）

栗藤委員長 はい。最後の5ページの説明でしたが、生徒募集とその他について、御意見や御質問等がありましたら、お願いします。

松本副委員長 具現化のイについて、近隣の小・中学校と連携し、近隣の小・中学生との交流を図るということで、少し言葉が重なっているなというイメージがします。あと、小・中学校だけではなくて、近隣の特別支援学校とも連携させていただいていますし、地域とも連携しています。そういった地域との連携が広報にもつながっていくのかなと考え、広い意味での連携と捉え、少し文言を変えていただけると良いかなと思いました。

栗藤委員長 はい。ありがとうございます。

事務局 御意見を踏まえ、修正させていただきたいと思います。

栗藤委員長 他はいかがでしょうか。この4月に第1期実施方策に基づいて開校した本庄市の児玉高校と飯能市の飯能高校がありますが、いずれも新校を作っていく上では、最後には生徒募集が大変重要な活動になってくるかなと思います。この2年間ほど両校ともに、大変なエネルギーを注いできています。このあと、現在の和光国際高校と和光高校の統合となりますが、募集が続いていくのは和光国際高校になります。和光国際高校のこれまでの実績からしますと、生徒募集でそれほど困ってしまうような場面はなかなか無かったかと思いますが、是非、新しい学校になっていくところをしっかりと中学生や保護者にPRしていくということを、開校までに行っていく必要があると思っています。そうした活動をしていく中での方向性を示しているのが、こちらの記載となります。そうした観点からもし御意見がありましたら、お願いします。山崎委員お願いします。

山崎委員 その他の項目がどういう位置付けなのかというのが良く分からないと言いますか、他の項目に入れようと思えば入れられるような内容かなとも思うので、あえて他に入れずにその他にしていることはどういうことでしょうか。

栗藤委員長 はい。では事務局よりお願いします。

事務局 御質問ありがとうございます。こちらの、その他については、第1期の新校基本計画に記載していた項目をもとに作成していますが、例えば、現在その他に記載しているア、イについては、どの項目にも当てはまる場所もありますし、その一方でどの項目にもよらない部分もあるかと思います。なかなかお答えが難しいのですが、幅広く各項目に共通しています。例えばイの、教員の研修については、教科指導、生徒指導、進路指導それぞれの項目で教員の研修を充実していくということが考えられる内容です。そういったところも含めまして、その他という項目は、様々な項目に影響を及ぼしているところで記載させていただいています。

栗藤委員長 よろしいですか。ありがとうございます。他はよろしいでしょうか。そうしましたら、全体を通して5つのパートに分けて協議してきましたが、もう一度全体を振り返りまして、ここの部分をもう一度確認したかったとか、この部分について意見があるなどありましたら、どこのパートでも結構ですので、何ページのこの部分ということで、お話いただければと思います。では、どうぞ。

岡島副委員長 改めて全体を見て気になった点です。進路指導の箇所、具現化のEに、授業評価アンケートや授業公開による生徒の学力向上が記載されていて、こちらに引っかかっています。恐らく基本方針のウに、授業改善によって生徒の学力向上を図るとともに記載されているので、こちらに紐づいているのかと思っています。一方で、教科指導の項目の基本方針のイに、学力の更なる向上を図ると記載されていて、内容が重なっているのかなと感じています。進路指導の項目であえて再掲している意味合いがあると思うので、削った方が良いのではないかと、重複ということで再検討を求めている訳ではないのですが、具現化の記載内容だけ見ると教科指導なのかなと見えてしまいます。全体を通して見たときに少し違和感があるなと個人的には感じたところです。

栗藤委員長 ありがとうございます。事務局はどうですか。

事務局 貴重な御意見ありがとうございます。こちらの進路指導の具現化Eについてですが、もともと和光国際高校案に、授業改善に生かすという記載でまとめられていました。事務局で検討していく中で、授業改善に生かした、その先に何を指すのかということまで記載したいと考え、授業改善をしたところで、生徒の学力向上を図っていく、その中で生徒の目指す進路実現につなげていくという思いを込めて記載したところです。いただいた御意見はおっしゃる通りかと思しますので、改めて検討させていただきたいと思います。

栗藤委員長 他の項目と比較しながら全体を見ていくことで御意見のような気付きがあるかと思しますので、改めて全体を通して他の項目とのずれや違和感を抱いていけば、率直なところで御指摘いただければと思います。では、山本委員お願いします。

山本委員 今のお話を受けて、探究という言葉について気になったのでお伝えします。まず、1ページの目指す学校アの最初に、探究的な学びという言葉があり、この後、教育活動等の基本姿勢にも、探究的な学びという言葉があると、さらに教科指導の基本方針ウにも、探究活動という言葉が入っているなど、探究というワードがいろいろな場面で出ています。新しい学校のコンセプトとしても、地球規模の探究的な学びは、非常に重要となるが、学科名に探究が入っていません。他の国際に関する学科を設置する2校については、国際探究科というのが原案であるということで、和光新校だけあえて学科名に探究を入れていないのに、内容として探究が何回か出てくるなというところで、探究的な学びをやっていく学校ですよというのをアピールするのであれば、学科名に入れるか入れないかは別として、それはそれとして出していく必要があると思います。逆に入っていないことが、目立つのではないかと思います。

栗藤委員長 ありがとうございます。こちらの、探究に関してはいかがですか。

事務局 はい。他の2校では、探究を学科名に入れているのですが、普通科では探究をしないのかという御意見もいただいているので、普通科で探究をするのかどうかも含めて、あえて、学科名に探究を入れなくてもやっていくというメッセージを基本計画でアピールできればと考えています。国際だけに探究を入れてしまうと、普通科では行わないのかということもあるので、特に和光新校は国際に関する学科の中心的役割を担う学校ですので、原案でもいかがかなと思っています。

栗藤委員長 よろしいでしょうか。では山崎委員どうぞ。

山崎委員 私も今のお話を踏まえて、学科名として、どう区別して国際科と国際探究科という名称を付けているのかということが1つと、また、2ページの教育活動等の基本方針に、地域との協働による探究的な学びとありますが、地域との協働とは具体的にはどのようなことを指しているのでしょうか。2点の質問です。

栗藤委員長 はい。2ついただきましたが、どうですか。

事務局 まず1つ目ですが、他と区別して国際科としていることは、今回、国際に関する学科を3校で設置することとしていまして、和光新校が、国際に関する学科の中心的役割を担うということもあるので、他の2校と分けたいということがあります。また、全国的に見て、東京都や神奈川県で国際科がある学校を見ても、王道的な学校はやはり、国際科という学科名にしていますので、和光新校は、国際科を原案とさせていただきます。また、岩槻新校、秩父・皆野新校については、国際探究科を原案とさせていただきますところでは。

事務局 2つ目の、地域との協働についてですが、教育活動の具体的な内容については新校開設委員会で検討していくことになるかと思いますが、第1回検討委員会で和光市の一つの学校として、地域との積極的な交流をとという御意見もありました。また、第1回準備委員会で地域の方から、これまで両校が和光市と取り組んできたイベント、高校生のボランティア、姉妹都市との交流、そうしたものは是非続けて欲しいという御意見もいただいています。具体的なことをこの場で申し上げることは難しいのですが、これまで両校が取り組んできた地域との協働を、更にいろいろなところに広めていければと考えております。

栗藤委員長 第1回新校準備委員会で地域との連携や協働が話題になっています。お手元にある参考資料4、こちらの2ページに発言の通し番号があるのですが、例えば10番では「地域社会の一員であることを生徒に意識させたい」ですとか、12番では「生徒が中学生と交流する機会等を活用し、生徒自身が学校紹介を」といった既に行われている部分もあります。14番は先ほど事務局から説明があった通りでして、15番は、海外から和光市に入ってくる外国にルーツのある人たちや子供たちに異文化交流という視点も含めて色々な支援ができないか、それは地域貢献にもつながるのではないかなど、こうした御意見をいただいています。そうしたこともあって、地域との協働や連携が記載されています。探究という学習活動も、そうしたところを一つのフィールドにしていく可能性もありますし、また、そもそも学習指導要領でも大きな売りとしての探究的な学びですので、そうしたところに新しい学び

を展開していただければという思いがあります。地域の皆様もそうした思いがあるということで紹介させていただきます。では、山崎委員お願いします。

山崎委員 今のお答えについてですが、地域との協働については理解できるのですが、探究的な学びは地域との協働によるものばかりではないと思いますので、地域との協働による探究的な学びという箇所について、探究的な学びと地域との協働を結び付けていることに違和感を抱いています。確かにそうしたものもあると思いますが、探究的な学びはもっと幅広いもので、地域との協働に限定されるものではないと思います。基本姿勢の文言としては範囲が狭まってしまわないかという印象を受けました。

栗藤委員長 はい。ありがとうございます。

事務局 貴重な御意見ありがとうございます。参考にさせていただきたいと思います。

栗藤委員長 では、お願いします。

松本副委員長 国際に関する学科の中心的役割を担う高校という新校になるということですが、中心的な役割が計画の骨子案のどこに反映されているのかと考えた際に、ここというのがなかなか見つからなかったです。その辺りは、どのようにお考えでしょうか。あと、新校を開校するに当たって、生徒募集が大事だという話がありましたが、新校の売りが大事だと思います。その辺りを今後考えていかなければならないのですが、何かアイデアがあれば教えていただければと思います。

栗藤委員長 では、お願いします。

事務局 ありがとうございます。中心的な役割として、明確な文言としては表現として難しい部分があると思いますが、目指す学校のウに、県内における国際教育を牽引しと記載させていただきました。もちろん教育内容の部分、新しく国際に関する学科を立ち上げる岩槻新校、秩父・皆野新校との交流を進めていく中でも、これまでの外国語教育を推進してきた和光国際高校の取組は、両校にも参考になっていくと思います。そういった意味での中心的な役割という意味もあります。また、例えば、生徒募集の項目でも記載させていただいたのですが、新校を卒業した生徒が様々な場所で活躍していくということが、最終的に新校の魅力にもつながっていく、そういった中で、和光新校を中心とした国際教育がつながっていくことをイメージしています。そういったところで記載していると事務局では捉えています。

栗藤委員長 よろしいでしょうか。他はいかがでしょう。谷津委員お願いします。

谷津委員 1ページ目の目指す学校ウの、県内における国際教育を牽引しという記載がありますが、例えばこういった学校を作りたいとなった際に、他県で同じような位置付けの学校の具体例や、もし具体例が無いようであれば、こういう部分で牽引してほしいという具体的なイメージがあったら教えて欲しいです。

栗藤委員長 はい。どうでしょうか。牽引するイメージをお願いします。

事務局 他県だと、国際に関する学科の学科数の違いはありますが、東京都立国際高校や神奈川県立横浜国際高校などが参考になると思います。また、牽引につきましては、教科指導の具現化イに、ICTを用いた海外との交流と記載しています。和光新校が率先して、遠隔学習のようなものも、岩槻新校、秩父・皆野新校と一緒に

なってやっていってあげればと考えています。その中心を和光新校に担っていただきたいと考えています。

栗藤委員長 学科のイメージもそうでしたが、東京都の、あるいは神奈川県それぞれの国際系フラッグシップ校を参考にしているところです。度々出てきますが、国際に関する学科を置く他の2校との連携というのは、できるところを探っていきたいというところです。例えば、こちらにたくさんのリソースがあるのだとしたら、そちらを上手く他の2校とシェアしていくものとか、もう少し具体的に言うと、現在の和光国際高校には留学生が来る機会が多いと思いますが、他方、岩槻新校や秩父・皆野新校にはそこまで外国人の生徒が入っていないかもしれません。そういったときに、例えば、こちらで外国人の生徒とディスカッションをする取組を、3校をネットをつないで行うなどイメージできます。そういった学びができれば良いのではないかという意見が出てきています。他にどうでしょうか。山本委員お願いします。

山本委員 生徒募集の具現化で伺います。アに、学校が持つ教育コンテンツや生徒及び卒業生の活躍とあるのですが、新校の場合は卒業生が出るまで、開校から3年間必要です。学校が持つ教育コンテンツについても、1期生の募集に当たっては、具体的にどういう生徒募集の具現化方策があるのでしょうか。生徒もいない卒業生もいない中、1期生の生徒募集ということで、次年度以降が決まってくると感じていますが、どういうイメージをお持ちなのか教えてください。

事務局 ありがとうございます。こちらは新校の基本計画ですので、具現化のアに記載されている内容については、新校が開校した後に実際に行われている教育コンテンツや新校の卒業生の活躍ということになるかと思えます。それとは別に、開校までに、特に開校前年度はしっかりと生徒募集していく必要があると思えます。こちらについては、こういった形で募集していくのか、新校開設委員会を中心に検討していく必要があると思えます。

栗藤委員長 はい。お願いします。スタート時にはなかなか蓄積もないので、この先こんなことを展開していく予定ですというアピールになると思えます。

松本副委員長 こちらは、基本計画に入れられないかと思えますが、生徒募集の具現化のオで、入学者選抜において、学校の特色や育てたい生徒像を踏まえた選抜基準を設けるという点について、国際に関する学科が設置されるので、国際色豊かに多様な生徒集団となるのが新校として必要かなと思っています。この辺りの入学者選抜についても、基本計画への明記は難しいかもしれませんが、せっかく高校教育指導課もいらっしゃっているので、今後検討をお願いしたいと思えます。骨子案ではありませんが、意見です。

栗藤委員長 はい。何かコメントありますでしょうか。

野澤委員 課に持ち帰らせていただいて共有したいと思えます。

栗藤委員長 ありがとうございます。

松本副委員長 併せて、入学後のことについてもサポートいただけると有り難いと思えます。現在も外国籍の生徒が在籍しているのですが、日本語がほぼできない生徒も入学しました。今後そうした生徒が増えてくる可能性もあります。地域柄、理化

学研究所やホンダがありますので、海外から帰国した生徒や、外国籍の生徒が増えてくる可能性もあります。新校になれば、よりそうした生徒が希望してくるかもしれないので、その辺りのサポートも是非今後の検討材料としていただければと思います。

栗藤委員長 はい。他はいかがでしょうか。

山崎委員 今の松本委員の発言に関連して。地域柄、ホンダの海外駐在員の帰国子女が、今は分かりませんが、多かった時期もありましたので、現在の帰国生徒特別選抜や外国人生徒特別選抜の枠だけでは限界があるのかなと思います。入学者選抜について、是非検討いただければと思います。もう一点。学校全体としてのイメージは良く分かったのですが、国際科が併設されている新校には普通科が6クラス規模であります。どういう普通科になるのか、どういう普通科を目指しているのかというと、一般論的にはなんとなく分かるのですが、どのような形になるのかと少し思いました。

栗藤委員長 他の委員会でも、普通科と特色ある専門学科を併置する場合に、普通科が余り打ち出されていないのではないかと御指摘をいただいたりしていますが、余り色が付いていないということが普通科なのかもしれません。いろいろなことができる普通科のため、なかなか特色的な表現が難しかったりもします。埼玉県内にはいろいろな学校がありますが、普通科と、こちらの和光国際高校もそうですが、外国語科が併置されていますと、外国語科が持つ特色が普通科にも波及します。学校全体として国際色豊かな学びが展開できるなど、普通科も特色ある学びに影響を受けていく側面があります。無色透明の普通科に少し色が付いていくような感じかなと思います。文言上は普通科のことが記載されていないということは、確かにおっしゃる通りかと思いますが、今の和光国際高校も普通科としてこれだというものを持っていて、それは和光高校もそうですが、それを前に出して行って、そうした魅力を発信しているのだと思いますが、そうしたところが上手く表現できると良いなとは思っています。事務局としては、国際系の部分についてはしっかり書いているのですが、普通科のところが弱いことは確かにそうかなと思います。ただ、先程述べたような事情があるのかなと思います。

事務局 一点だけ補足をさせていただくと、普通科のニーズが全県的にありまして、今回も6クラスを原案とさせていただいています。他校の普通科との違いとしては、例えば教科指導の具現化ウのところ、一部の科目は学科を横断して選択できるようにすると記載しています。国際に関する学科に設置している国際理解科目等を普通科の生徒も選択できるようになれば、他の普通科との違いを打ち出せるのかなと思っています。普通科でも国際に関する学科の科目を選択しながら、国際色豊かな学校になっていければ良いと考えています。

栗藤委員長 記載については、両校の教頭は当課の主任管理主事でもありますので、今後、それぞれの教頭を通じて、事務局とやりとりをしていきたいと思っています。校内で論議が深まった際には、是非教頭を通じてお伝えいただければと思います。最後に御意見はありますか。

山崎委員 普通科について説明いただきよく分かったのですが、現在の和光国際高校が感じていることは、外国語科の生徒の進学先は文系がほとんどでして、一方で、理系志向が強い生徒の中にも国際的なことに関心があって、国際的な場面で活躍したいという理系の生徒も一定数います。そういう生徒に対する指導が多少なり手厚くなると、国際科が併設されている普通科に是非入学したいという生徒が増えるのではないかと思いますし、具体的には海外で就職して理系の分野で活躍したいと考えている生徒、英語に強い理系の生徒、理科的な専門知識における英語が強い生徒など、そうした志望の生徒も一定数います。現行の体制だと、そういった生徒への指導が十分にできていなくて、外国語を手厚く教えられているのは文系の生徒のみで理系の生徒のニーズに十分に応えられていない部分もあります。新校においては、国際科のおこぼれをもらう程度ではなく、理系志向の生徒についても国際的な場面で国際人として活躍できるように、意欲を持った生徒に応えられる普通科になってくれると、現状のもやもやした状態が良い方向に向かうのかと感じています。

栗藤委員長 ありがとうございます。御意見については持ち帰らせていただき、検討させていただきたいと思います。先ほど御意見があった、この地域における外国につながる生徒や理系の生徒もそうですが、和光国際高校としても課題意識を持っていることは校長から度々伺っています。新校になるこの機会に、御意見の要素を盛り込んでいければ良いと考えていますが、できることとできないことを峻別しながら、最終的な案を取りまとめていきたいと思っています。